

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で生活が送れる様に「一緒にいる喜びを感じられる家庭」を掲げ地域住民との交流を図っている。又、スタッフ全員で地域密着型サービスの意義を常に確認しあっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月開催しているスタッフ会議で、理念にふれ意識づけている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2ヶ月に1度、公民館や民生委員、町内会長を始め各地域包括センターへ理念を揚げた通信を送付している。又、家族会や地域運営会議でも行事や実施内容を伝えている。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩や買物の際、近隣の人達と挨拶を交わしたり、顔見知りの人がボランティアにも来て頂いている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のバザーへ参加や中学生の体験学習の受け入れ、地域の敬老会への参加。又、地域の美容室等を利用し、利用者と共に積極的に参加している。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の中学校の職場体験を受け入れたり、随時介護相談を受け入れ、見学やグループホームの説明をしている。又、防災訓練の参加を呼びかけている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全て評価の内容を全職員に伝え、サービスの質の向上に努めている。又、外部評価の結果はフロア会議で報告し、改善に向けて検討・実践につなげる為の努力をしている。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、ホームの実施内容を話している。これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても報告し、意見や要望を聞き入れサービスに生かしている。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の訪問を受け入れ、担当者が変わるときも来所して頂き利用者と顔なじみになって頂いている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員は各研修に行って学び、報告書を記録後、全職員が目を通すようにしている。又、重要な箇所は会議で、説明をしている。家族には介護教室で説明し、資料を提供している。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	関連する研修に参加している。又、毎月のフロア会議で話し合い理解を深めるようにしている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に時間を取って、丁寧に説明している。特に利用料金や起こり得るリスク・重度化や看取りについては、慎重に主治医と相談し、家族に説明し医療連携体制の同意書を得ている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力 をしている。その時の様子は職員で申し送 り、話し合いながら対応している。又、各利 用者に対して、1人担当者が付き、より深く 信頼関係が出来る様に密に接している。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月担当職員が家族便りとして、1ヶ月の様 子と現金出納帳に領収書を添えて送ってい る。又、個人のアルバムを作成し訪問時 には、日頃の様子を知らせている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、地域推進会議や家族会で常に問 いかけ、苦情・相談窓口や第三者機関への連絡 先も知らせている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	毎月開催している、フロア会議で、職員の意 見・要望を聞くようにし、働きやすい職場環 境作りに努めている。又、日頃からコミュニ ケーションを図るように心がけ、問いかけし ている。又、個人の要望に応じて観劇や買物 に付き添っている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	シフトを組んで（早出・日勤・遅出・当直） 利用者の状態やペースに合わせている。又、 外出時などには、職員の数を増やして対応す る事もある。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	両者・御家族への信頼関係を築く為にも各ユ ニットの職員を固定化している。新しい職員 が入る場合は、きちんと紹介し、早く入社し た職員が間に入り、スムーズな人間関係が出 来る様にしている。馴染みの職員と一緒に研 修をし、スムーズに交替が出来る様心がけて いる。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	資格や経験だけを重視せず「高齢者は好きか」「高齢者の介護に意欲的か」「向上心のある人か」に重点を置いて、年齢や性別の区別なく採用している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	各研修に参加し勉強し、研修報告をしている。又、市民センターが開催している出前講座を活用し、家族や町内の方にも参加していただいている。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講出来る様にし、経験などに応じて順次管理者研修・実務者研修をうけている。又、ホームではベテランの職員について学習させ、レポートを提出させている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は南区の「ささえあいの会」に参加したり、同業の西日本介護サービスに相談し、質の向上に努めている。又、職員も順次、他のグループホームで実習・研修をしている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	運営者は日常的に職員のストレスや悩みを把握するようにしている。勤務時間中にも職員の疲労を考え、コーヒータイムを作り、気分転換が出来る様配慮している。又、休日希望を聞き、プライベートを充実出来る様にシフトを考慮している。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の資格取得に向けた支援を行っている。又、職員のやりがいや向上心を持てる職場環境作りの為、希望の公休や連休を設けている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ケアマネージャーから情報を得、事前に面接へ行き、本人の生活状況を把握出来るようにしている。入所前には、体験入所をして頂き、不安のない本人主体の生活が送れる様に支援している。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族との面会時、御家族の希望、困っている事などを伺い密に話し合いながら、信頼関係が築けるようにしている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や御家族の思いを状況に応じて、改善に向けた支援の提案をし、実行している。又、必要に応じて地域包括センター・地域のケアマネージャーに相談している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所をして頂き、徐々に生活に馴染んで頂いている。御家族にも出来るだけ面会に来て頂き、安心して利用できるよう取り組んでいる。又、出来る限り本人のバックグラウンドを大切に会話の中で安心感を持てるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人と一緒に過ごしながら、不安や喜び・楽しみを日常の中で共感し合えるように努力している。又、昔の行事や習わしを教えて頂き、生活の中に活用している。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や状態の変化などの情報を積極的に話をし、本人と一緒に支える為、家族と同じような思いで、支援に努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会や外泊を呼びかけ、交流を図って頂いている。又、電話や手紙での交流も支援している。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個別に馴染みの美容院に行かれる利用者や近くに暮らす友人の来訪を支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	毎日のお茶や食事はいつも職員と利用者が一緒にとり、声かけや利用者同士がスムーズに会話出来る様支援している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設や病院に移られた後も面会に行ったり、ご家族に電話で経過報告を受けたりし、継続的に関わっている。		

【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】

1. 一人ひとりの把握

35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での言動や職員の声かけや聞きとりの中で、把握している。又、意志疎通の困難な方には、表情や動きで要望を察知出来る様に心がけている。御家族より話しを聞いて把握出来るようにもしている。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家庭での生活を知る事の意味を家族やケアマネージャーに伝え、プライバシーに注意しながら、聞きとりを記録に残して支援の参考にしてている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に出来る事を見つけて、楽しみや生活の意欲が出るよう支援してケアプランに反映している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプラン作成前には、アセスメントを含め、本人や御家族に意見・要望を聞き、カンファレンスを全職員で行っている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は短期目標3ヶ月・長期目標6ヶ月に見直し、状態が変化した際にはその都度、本人や御家族や主治医の意見を聞きながら検討・見直しをしている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルを作成し、食事・水分量・排泄・入浴のチェック表や日々の暮らしの様子や本人の言葉・エピソード等を記録し、全職員が確認出来る様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制を活かし、その利用者にとって負担となる受診や入院の回避・早期退院の支援・医療処置を受けながらの生活の継続を可能な限り支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して、暮らしを続けられるように警察や民生委員とボランティアと交流する機会を設けている。又、消防署には、防火訓練に協力して頂いている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じて、訪問散髪や顔そりの支援をしている。又、歯科衛生士による、口腔ケアに週1回来て頂いている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加して頂き、介護者教室で周辺情報や支援に関する情報交換等は話して頂き、協力関係を築いている。又、地域包括支援センター主催の研修にも参加し信頼関係を築くようにしている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や御家族が希望するかかりつけ医にお願いしている。又、受診や通院は本人や家族と一緒に職員が同行したり、不可能な時は職員が代行するようにしている。その旨御家族に同意を得ている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院のみやま内科の院長より、認知症について指示や助言を受けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者職員に看護師を配置しており、常に利用者の健康管理や状態変化に応じた支援を行えるようにしている。又、のみやま内科の師長に日頃の健康管理の相談をし、運営会議にも出席して頂いている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者は長期入院の弊害を理解しており、医師・御家族・病院のソーシャルワーカーと連絡を取り合い早期退院につなげている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対する対応指針を定め、御家族・医師・看護師を交えて話し合い、書面で同意を得ている。又、状態の変化に合わせて御家族や本人の気持ちを大切にす様に支援している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人や御家族の意向を確認しながら、主治医・職員が連携を取り合って、安心して納得した最後が迎えられるように支援している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事前に住み替え場所の見学や情報を収集し、転居までの間ダメージをより少なくするためにメンタル面のケアに注意している。他の施設に移られた場合、御家族同意を得てアセスメント・ケアプランや支援状況等を渡し、情報交換をしている。又、転居後は職員が訪問している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしてないか全職員で意識づけ、徹底するように取り組んでいる。又、個人情報保護法の理解を説明し事務所の見やすい所に掲げている。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者に合わせて声かけし、出来るだけ希望・要望を聞いている。意志表示が困難な方には、御家族へ聞いて対応している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にし個別に対応し支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する理・美容室へ外出する支援をしている。TPOに応じた化粧やおしゃれを楽しんで頂けるよう努めている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューは利用者に聞いて、旬の食材を採り入れ作っている。職員も同じ食卓を囲んで同じ物を楽しく食べている。又、準備や片付けも一緒にしている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	他利用者に迷惑をかけないように場所をつくり、喫煙して頂いたり、好きな食べ物や飲み物を職員と一緒に買いに行き楽しんで頂いている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し、トイレ誘導をする事で、トイレでの排泄を促し、尿取りパットやリハビリパンツを減らすように心がけている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人ひとりに合わせて毎日入浴したい時間に入浴して頂いている。入浴を拒む方には、言葉かけの工夫を行い、タイミングを見計らって入浴して頂いている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中、個別に自由に休息して頂いている。又、夜 眠れない利用者には、なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるよう努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事が好きな方には、本人専用のエプロンをつけて、お皿拭き・台拭き・洗濯物干し・たたみをして頂いている。塗り絵が好きな方には本人専用の塗り絵の本を購入し、塗り絵をして頂いている等個々に合わせて活躍して頂いている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の了解を得て、少額のお金を持っている方もいる。又、買物の付き添い時、欲しい物はお金を支払って頂いている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や気候、本人の気分・希望に応じて、日常的に散歩・買物に出かけている。又、車椅子等を利用し、戸外へ出ることも行っている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望で行きたい場所があれば、可能な限り計画を立てて対応している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や友人からの電話は子機電話につながり、居室でゆっくり話が出来る様にしている。手紙や年賀状など職員から声かけを行い、いつでも出せるように支援している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	訪問時間などは定めていないが、事前に連絡を頂ければ、早朝・深夜の面会も対応出来るようにしている。御家族・知人が来訪された場合、ご希望を伺い本人の居室やリビングでゆっくり過ごせるように配慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に行った職員が研修報告をしながら、身体拘束について話し合い、共有確認を図っている。又、身体拘束廃止委員会を設置し、万が一身体拘束をする場合は、書面で御家族に同意を貰っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関や居室には鍵をかけていない。外出しそうな利用者がいたら、察知し、さりげなく声をかけたり、見守りを行い付き添っている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	作業や記録はリビングで行い、常に利用者の状況を把握する様努めている。夜間は、2時間ごとに巡視をし居室が見通せるリビングで、変化が予想される利用者は随時方質し様子観察している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意が必要な刃物・薬・漂白剤などは、利用者の手の届かない場所において、職員が管理している。必要時利用者の状況に合わせて手渡し見守りを行っている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット・事故報告書を記入し、事故原因の今後の予防対策について見当し、職員間で共有するようにしている。事故が起きた場合は御家族へ説明と報告を行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が救命講習に参加している。緊急時対応のマニュアルを作成し、定期的話し合っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を経て利用者と一緒に避難訓練、避難経路の確認消防器の使い方などの訓練を行っている。又、非常用食品備品を準備している。運営会議で家族や地域の方にも協力して頂けるよう呼びかけをしている。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒等の起こり得るリスクについては、ご家族へ電話や面会時に説明し理解を求めている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い普段の状況と違う場合は個人記録に記入したり申し送りを徹底。状況により主治医に相談し受診している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに処方箋を保管したりお薬手帳を保管しいつでも確認出来る様にしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に向けて食事は繊維質の多い食材を取り入れている。運動を促し自然排便に繋げている。又水分チェックや排便チェックを行っている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週に1回歯科衛生士に来て頂き指導やアドバイスを受け口腔ケアの重要性を理解している。毎食後口腔ケアの声かけを行い力に応じて職員が見守り介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎回チェック表に記録し全職員が把握出来るようにしている。週2回のみやま内科の院長に検食に来て頂き栄養バランスやカロリーについて専門的なアドバイスを受けている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し全職員で予防対策に努めている。インフルエンザ予防接種は全職員及び利用者全員受けている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾等は随時漂白し冷蔵庫内の点検、掃除、消毒を毎日行いチェック表に記録している。食材の鮮度や賞味期限の確認を頻繁に行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気玄関になる様に花を生けたり玄関先に季節の花のプランターを置いたりプレートを飾った演出をしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアやテーブルには季節にあった花や飾りつけをしたり菖蒲湯、その季節に合った食べ物を採り入れ季節感を感じられるように工夫している。テーブルやテレビは利用者にとって使いやすい配置にし、過ごしやすく工夫している。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに椅子やテーブルを置き窓から外を眺められるようにし、一人で過ごせるスペースを作っている。又、廊下のちょっとしたスペースに椅子を置き、他の利用者との会話を楽しんだり寛いで頂いている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は以前から使用している馴染みの家具や寝具を持ち込んでいただいて安心して過ごせる様に配慮している。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フロアは食事の後に換気しており湿度計や温度計と利用者の様子に注意、確認しながら調整している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーやオール電化を使用している。廊下や浴室、トイレなどに手すりを設け安全確保と自立への配慮をしている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	洗面所やトイレ居室にプレートを貼り、場所の確認が出来る様にしている。状態が変わり新たな混乱が生じてきた場合はその都度職員一同で話し合っている。汚れは速やかに対応している。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭や玄関先に花や野菜を植えたり、畑のスペースを作り利用者がいつでも楽しみながら活動できるようにしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項目	取り組みの成果				
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)				
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と	②家族の2/3くらいと	③家族の1/3くらいと	④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように	②数日に1回程度	③たまに	④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている	②少しずつ増えている	③あまり増えていない	④全くいない
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が	②職員の2/3くらいが	③職員の1/3くらいが	④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が	②利用者の2/3くらいが	③利用者の1/3くらいが	④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が	②家族等の2/3くらいが	③家族等の1/3くらいが	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域に根ざしたグループホームとしての役割を意識し、地域交流や介護相談を行っている。開放的で明るく誰もが立ち寄り、利用しやすい環境作りに努めている。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義をスタッフ全員で確認し、地域の中で生活が送れる様、「一緒にいる喜びを感じられる家庭」を理念として掲げ地域住民との交流を図っている。	○	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月、スタッフ会議を開催し、理念に基づいたサービス提供が行えているか確認している。	○	
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	2ヶ月に1度、公民館や民生委員、町内会長をはじめ、地域包括支援センターへ、理念を掲げた通信を送付している。又、家族会や地域運営推進会議でも、行事予定や、実施内容を伝えている。	○	
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所の方が犬の散歩をされていると、挨拶を交わしたり、立ち寄ってもらい、犬好きの入居者が犬と触れ合う機会を持っている。又、町内会に加入している。	○	
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所のスーパーにはほぼ毎日入居者の方と行き、地域のバザーにも参加した。又、地域の夏祭り、敬老会等に呼んでいただき、地域の方々との交流を深めている。	○	
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域中学校の職場体験を受け入れたり、介護相談に応じ、ホームの見学を気軽にしてもらい、グループホームの説明をしている。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の内容を全職員に伝え、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は見やすい場所に掲示し、常に意識しながらサービスに活かしている。	○	
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、ホームの実施内容を話している。その都度、要望や意見を交換し、サービスの向上に努めている。	○	
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市職員の訪問を受け入れ担当者が変わる時も来所して頂き利用者と顔なじみになって頂いている。	○	
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	スタッフは定期的に研修に行き、報告書と共に会議の際に、報告し合っている。 又、家族には、人権に関する出前講座に出席してもらった。	○	
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフが研修に行き、学び得た知識をスタッフ会議で報告し、スタッフ間で虐待への理解を深めている。	○	
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	個別に十分な時間を取って説明している。重度化や看取りについては慎重に家族の意向を伺いながら、主治医と相談し、医療連携体制の同意書を得ている。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活における利用者の言動から、考えや 思いを分かるように努めている。その時の様 子をスタッフ間で申し送り、話し合いながら 対応している。又、各利用者に担当者が2人 つき、より深く信頼関係が出来る様にしてい る。	○	
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	毎月担当スタッフが、家族宛に本人の現在の 状況や状態を記入した通信及び金銭出納帳を 送付している。他にも電話やメールで報告し ている。	○	
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には地域運営会議や家族会で常に問いか け、苦情相談窓口や第三者機関への連絡先も 知らせている。 又、玄関に”ご意見箱”も設けている。	○	
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議で、意見や提案などを聞 くようにし、働きやすい環境作りに努めてい る。	○	
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	行事や催し事がある際には出勤スタッフの数 を増やす等、工夫をしている。	○	
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	信頼関係を深めるためにも、職員を固定し利 用者にとってなじみの職員が対応できるよう にしている。離職や移動の時には、引継ぎの 期間を十分に取り、利用者や家族への配慮を している。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用にあたっては、「高齢者は好きか」「高齢者の介護に意欲的か」「向上心のある人」に重点を置き、資格、経験、年齢や性別は重視していない。	○	
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	各研修に随時スタッフが交替で参加し勉強できる様にしている。研修報告を提出してもらい、スタッフ会議で話し合ったりしている。	○	
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験などに応じて順次、認知症介護実践者研修、管理者研修を受講している。研修に参加した場合、その都度報告書を作成している。ホーム内では新人スタッフには、ベテランスタッフが付き、指導している。	○	
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は南区の「支えあいの会」に参加している。又、福岡県グループホーム協会に加入し、研修の場で、他のグループホームとの意見交換を行うなどしている。	○	
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休日希望を聞きプライベートを充実できるようにシフトを考慮している。勤務時間中にもコーヒータ임을設け、気分転換が図れるようにしている。	○	
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	スタッフの資格取得に向けた支援を行い、職員の意向を重視した労働環境づくりに努めている。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に面接へ行ったり、ケアマネージャーから情報を得て、生活状態を把握できる様にしている。 又、入所前に体験入居をして頂き、不安のない本人主体の生活が送れる様支援している。	○	
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族との面談時「今困っていること」「今後はどうしたいのか」等について、詳しく伺い、密に話し合いながら、信頼関係を築く努力をしている。	○	
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、必要に応じて地域包括支援センターや地域のケアマネージャーに相談している。	○	
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居期間を設け、徐々にホームの生活に馴染んで頂いている。ご家族にも出来るだけ面会に来て頂き安心して利用できる様に努めている。又、折に触れ、ご家族や利用者から、今までの生活状況を聞き取り、把握するように努めている。	○	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意分野や残存能力を發揮できる場面を設けることにより、お互い様と言う関係を築いている。	○	
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時は、利用者の様子を細かくお話しし、情報を共有している。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人が書いた手紙や塗り絵を家族に送ったり、家族と一緒に外出、外泊、外食ができるよう家族に提言している。又、その時の利用者の様子を聞き取ることで、次回の外出に支障がないよう支援している。	○	
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	旧友への年賀状や暑中見舞いを書かれることを支援したり、行きつけの美容室が利用できるように支援している。	○	
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	洗濯物や掃除、食事の片付けなど、複数の利用者と一緒に手伝いしていただき、利用者同士で自然に助け合う場面を作っている。	○	
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、入院された場合や他の施設に移られた場合、面会に行ったり、ご家族に様子を伺うなど、関係を継続するようにしている。	○	
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からさりげなく希望を汲み取るように努めている。困難な場合、家族からの情報を元に推察、検討している。	○	
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族、利用者だけでなく、ケアマネージャーやソーシャルワーカーなどからも今までの生活歴を得るようにし、フェースシートに記入している。入居後の利用者との会話から得た情報も合わせて、日々の支援に役立てている。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活のリズムを理解し支援している。又、出来る事を見つけ楽しみや、生活への意欲が向上する様支援している。	○	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者やその家族の意向を元に、本人が生活の中で自分らしく暮らしていけるよう職員全体で観察し、カンファレンスを行っている。	○	
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに、介護計画がご本人に合っているか、遂行できているかを観察・評価し、本人の状況や状態に合わせて本人、家族、主治医と相談しながら、現状に合うようにサービス計画を見直している。又、急に状態が変化した場合もその都度、サービス計画を見直している。	○	
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに、食事や排泄、入浴、日常生活の状況、言動などを記録している。又、勤務に入る前には申し送りをを行い、確認を行っている。	○	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院の付き添い、介護タクシーの予約をしている。家族の希望を元に早期退院への支援をしている。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察や民生員を始めボランティアの方々と交流する機会を設け協力を得ている。防災訓練時は、消防署に御協力をいただく他、民生委員や町内会長などに参加の声をかけている。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の希望に応じて訪問散髪や、髪顔そり、マッサージの支援をしている。又、歯科衛生士による口腔ケアも週1回来て頂いている。	○	
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加していただき介護者教室で周辺情報や地域包括支援センターの役割等の話をして頂き協力を得ている。	○	
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人や家族の希望する医療機関にかかりつけ医を御願っている。又受診や通院はご家族と一緒に職員が同行したり職員が代行する等しており、その都度ご家族に了解を得て行っている。	○	
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	協力病院の、のみやま内科の院長より認知症について詳しく助言指導を受けている。	○	
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	のみやま内科の看護師長に日頃の健康管理や医療面での相談をし、運営推進会議にも出席してもらっている。又、ホーム長に看護師を配置している。	○	
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院され、ご家族がホームでの生活を希望される場合、入院先の病院関係者にその旨を伝え早期退院、退院後のホームでの生活について相談している。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	癌が見つかった利用者の場合、家族の「手術せずなるべくホームで過ごして欲しい」との希望があった為、連携病院の主治医、かかりつけ医の同意・協力の元でホームで過ごされている。又、職員も特変があった場合、ホーム長、かかりつけ医に報告している。	○	
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	癌の利用者で下血が多かった場合、ホーム長、かかりつけ医に報告し、内服薬、点滴で対応している。血液検査による貧血の監視、ホームでの貧血症状、排便状態の監視を行っている。食生活で改善できる貧血などは個別に鉄分の多い食材で対応することもある。	○	
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	他の事業所に移られた場合でも家族の同意を得、情報交換をしたり、職員が様子を伺うために訪問したり、リロケーションダメージを最小限にする努力を行っている。	○	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者が恥ずかしいと感じるような言葉かけはしていない。排泄に関する質問は本人のそばに寄り、他の入居者に聞こえないよう配慮している。	○	
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	例えば、入居者の水分補給の為に飲み物、塗り絵、パズルなどのレクリエーションは、複数の選択肢から入居者に選んでもらうこと、職員が押し付けることはしていない。	○	
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な食事、おやつ時間は決まっているが、入居者の気分、体調に合わせ、随時対応している。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ホーム入居前から行きつけの美容室がある方は、入居後も同じ美容室を利用されている。入居者にあわせて、近所の美容室、理容店、訪問理容を利用している。特に、外出時やお正月などは、整容や洋服に配慮している。	○	
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの前に入居者の希望を伺い、希望があれば対応している。調理、食事、後片付けは入居者に合った作業を選び、共に行っている。	○	
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ビールは常に冷蔵庫に冷やしてあり、希望時には提供できている。又、個人で好みのジュースを購入し、居室で楽しまれている方もいる。	○	
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿取りパット、オムツを使用している方の排泄チェック表を作成し、その方に合った時間でのトイレの声かけ、誘導を行っている。又、排泄サインを見逃さないよう、職員全員で観察し、排泄の支援を行っている。	○	
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日の中で入浴の時間帯は決めているが、その時間帯の中で、ご本人の希望を聞き入浴して頂いている。本人が入浴したくない場合は無理に入浴させず、本人の入浴ペースを守っている。	○	
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごせるようにしているが、夜間の睡眠が不十分な方は、ご本人のペースにあわせて無理に起こすことはせず、十分な睡眠がとれるよう配慮している。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外出の好きな方は食材の買い物、手先の器用な方には縫い物、皿拭きの得意な方は食後の片付けなど、その方に合った仕事をお願いし、その都度感謝の気持ちを伝えている。	○	
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理ができる方は、本人が所持されて外出先で自由に買い物をされている。又、お小遣い帳の記入を職員が支援している。	○	
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の好きな方は、日常的な買い物と一緒にやっている。又、パンの好きな方はパン屋さんに出かけたり、花の好きな方は近所の女学院に花を見に行ったりしている。天気が良い時は、散歩に出かけている。	○	
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	御本人の要望もあり、ご家族と調整をしながら、小林幸子ショーに出かけた。又、動物好きな利用者とは「ライオンキング」を一緒に見に行き、とても感激された。又、利用者が均等に個別対応できるようにご家族に希望を伺ったりご本人の日常生活から楽しめるような場所を考え支援している。	○	
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が家族や友人などに、年賀状や暑中見舞を書かれ、自由なやりとりを支援している。又、家族、旧友、親戚等への電話も自由にかかけられている。	○	
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	日中、家族・知人が来訪された場合、居室カリビングかの希望を伺い、ゆっくり面会出来るように配慮している。又、他の入居者が面会の支障にならないようにしている。又、事前に連絡を頂ければ、早朝・深夜の面会も対応できる。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修に参加した職員が研修報告書を記入し、全職員が観覧している。どのような行為、声かけが拘束にあたるかを全職員が共通認識として持っている。転倒による骨折の危険性のある利用者に対しては、スタッフが手引きで歩行介助する等、拘束せず対応している。	○	
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中のスタッフが外出援助等で手薄な時や夜間帯は、安全対策の為、鍵をかける事もあるが、普段は施錠せず、玄関のセンサーで外出の気配を察知し、さりげない声かけと見守りで不慮の単独行動、外出を未然に防いでいる。	○	
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	台所で調理している時もダイニングの入居者の様子を見ている。又、昼夜とも、記録等の事務作業は、リビングで行い、入居者の所在、様子を把握している。	○	
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物、洗剤、漂白剤等は、利用者の目の届きにくいところに保管している。薬は、内服直前まで事務所に保管し、利用者の手を届きにくくし、事故のないよう対応している。	○	
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、離脱未遂など、ヒヤリハット、事故報告書をその都度記入し、全スタッフで観覧している。今後の課題、改善点などを検討し、その後の事故再発のないよう対応している。	○	
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救命講習を受講した場合も研修報告書を記入し全職員に閲覧し、その都度再確認している。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回入居者と共に避難訓練を実施している。又、消防署の協力で消火器の使い方などを訓練している。更に地域運営推進会議で町内会に協力を呼びかけている。	○	
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒の危険性がある利用者の家族には、転倒の危険性がある事と、拘束ができない事を十分に説明し、同意を得ている。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝、バイタルチェックのほか、顔色や食欲、感情や動作で体調の変化を察知し、管理者、ホーム長、主治医の指示を仰いでいる。	○	
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人ファイルに常に最新の薬の情報を保管し、職員がいつでも参照・確認できるようにしている。又、薬と毎日の様子の相関関係を確認したい方は服薬時間を毎回記録に残している。	○	
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため、食事は食物繊維の多い食材を工夫し使っている。又、歩行や体操を促し、便秘の改善に取り組んでいる。排便、水分チェック表を記入している。	○	
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアの声かけを行っている。部分入れ歯・総入れ歯等、その方に合った口腔ケアを声かけ、見守り、介助している。就寝前には、義歯を入れ歯洗浄剤で洗っている。又、毎週1回、歯科衛生士による口腔ケアを行っている。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取回数を個人ごとに記録している。糖尿病、肥満気味の方などを考慮し提供する食事量をコントロールしている。	○	
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染予防マニュアルを全職員が所持しておりいつでも見ることができるようにしている。インフルエンザ予防接種は入居者、職員共、受けている。	○	
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒予防のため、台所での手洗いを徹底している。調理器具、布巾は毎日消毒している。冷蔵庫内の清掃、食品の賞味期限確認も実施している。職員は毎月大腸菌検査を行っている。	○	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの看板は、周囲からわかりやすいように夜間は点灯している。玄関周囲は季節の花を植え、親近感を持ってもらえるよう努力している。	○	
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの飾りつけは入居者と一緒に季節に応じたものを手作りし、飾っている。台所は利用者と共同で調理出来る様、十分な広さを取り、オール電化で対応している。浴室はドライバスを考慮し個別浴槽で脱衣所にはカーテンをしている。テレビや音楽の音はその時の状況に応じて調節している。	○	
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールに長いすと小さいテーブルを設置し、仲の良い入居者同士で話ができる空間を作っている。	○	

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具の持込をしてもらい、ご本人が安心できる様な空間作りをしている。 又、入居後も本人の希望で、仏壇、冷蔵庫、植木鉢などを搬入されている。	○	
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	随時、換気を行い、掃除の際も必ず行っている。トイレは常に換気扇をつけ、消臭剤を置いている。空調は入居者の方に伺いながら、温度、座る場所を調整している。温度計を各部屋に設置し、状況に合わせた温度で対応している。	○	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室、リビング周囲には手すりを設置している。車椅子のまま利用可能なトイレもある。室内はバリアフリーになっている。	○	
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自分の居室が分かるように居室のドアに名前を貼っている。又、トイレも「お便所」の張り紙をしている。	○	
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダには季節に合った植物をプランターに植え、いつでも楽しめるようにしている。	○	

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項目	取り組みの成果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域に根ざしたグループホームとしての役割を意識し、地域交流や介護相談を行っている。開放的で明るく誰もが立ち寄ったり、利用しやすい環境作りに努めている。